

オプション教材ムベ 暗唱長文集



●暗唱の手順 1 日分

・ 1 日目は、まず、**1**の文章を30回音読します。最初の数回はゆっくり正確に「てにをは」などを間違えないように読みます。

正確に読めるようになったら、ある程度早口で棒読みで、句読点などであまり息継ぎをせずに読んでいきます。

イスにきちんと座って読むと読みにくい場合は、歩き回りながら読んでもかまいません。

お母さんやお父さんは、読み方の注意などは一切せずにただ優しく褒めるだけにしてください。

15回ぐらいでもう空で言えるようになることが多いと思いますが、できるだけ30回続けて読んでください。

なぜ回数を決めて繰り返すかという、と、「覚えられたらよい」という目標でやっていると、暗唱の教材が難しくなったときに、「難しいからできなくなった」ということになりがちだからです。「決まった回数を繰り返す」という目標でやっていると、難しい教材になっても同じように暗唱ができます。

30回音読しても暗唱できない場合は、もう10回音読してください。

これでその**1**の文章が暗唱できるようになります。

それでもできない場合は、暗唱の自習はいったん終了してかまいません。また機会を見てやっていきましょう。

●暗唱が難しいときは

暗唱のような短い時間の学習は、夕方にやろうとすると忘れてしまうことがあります。また、毎日同じようにやらないとできるようになりません。できるだけ、朝ご飯の前などに、家族のいる中でやるようにしましょう。

そして、暗唱を毎日やるのが難しい場合は、暗唱の自習はせずに、読書の方に力を入れていってください。

●暗唱の手順 1 週間分

- ・ 1 日目に、**1**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 日目は、**2**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 3 日目は、**3**の文章だけを同じように30回音読し、暗唱できるようにしておきます。
- ・ 4 日めは、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すぐに暗唱できなくてもかまいません。
- ・ 5 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 6 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。
- ・ 7 日めも同じように、**1**、**2**、**3**の全部通して、10回音読します。すると、**1**から**3**の全部の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の手順 1 か月分

- ・ 1 週目に、**1**から**3**の文章を暗唱できるようにします。
- ・ 2 週目は、もう**1**から**3**はやらずに、今度は**4**から**6**の文章を暗唱します。
- ・ 3 週目は、同じように、**7**から**9**の文章を暗唱します。
- ・ 4 週目は、**1**から**9**の文章を全部通して、毎日4回ずつ音読します。
- ・ すると、1 か月で**1**から**9**の文章が暗唱できるようになります。

●暗唱の活用

・ 暗唱のコツをつかむと、自分の好きな本の1部を暗唱したり、英語の教科書を暗唱したりできるようになります。また、覚えるつもりがなくても、物事が頭に入りやすくなります。

●より詳しい説明は

より詳しい暗唱の仕方は、「暗唱の手引」(<http://www.mori7.net/mori/mori/annsvou.html>)をごらんください。

1朝、学校に向かう道の途中に、背丈よりもわずかに高いキンモクセイの木がある。秋になると、風に乗ってほのかに甘い香りが漂ってくる。ちょうどこの花が咲くころに、懐かしい思い出があったような記憶がある。2それが何だったのかは忘れてしまったが、キンモクセイの香りをかぐと、小さいころの自分の気持ちが戻ってくる。今の生活は、定期テストがあったり、部活の練習や試合があったり、学校行事の準備があったりと、毎日があわただしい。3時間に追われて生活していると、気持ちいだんだんと単調になってくるようだが、そんなとき、懐かしい花の香りに触れると、その季節を思い出

し、ふと自分を振りかえる気持ちになれる。4季節を感じて生きることが大事だと思う理由は、第一に、季節ごとの思い出に応じて人生がそれだけ豊かになることだ。

例えば、夏というと、私がまず思い浮かべるのは、子供のころ、海辺で食べたスイカ割りのスイカの味だ。5みんなで輪になって少し砂の混じったくずれたスイカをたづね食べた。種の飛ばしっこをしてみんなで笑ったことや、そのときの波の音や空の青さが今でも心に残っている。6もしこれが、夏でも冬でも同じようにスイカが買えて、パックにきれいに詰められているスイカを食べただけだったら、懐かしい思い出にはならなかっただろう。

もう一つの理由は、季節を感じて生きる生活こそが、環境にとっても無理のない合理的な生活だからだ。

7例えば、夏の暑い日にクーラーを効かせた生活をすれば、家の中や車の中は確かに涼しいが、その涼しくなった分だけ熱が外に排出される。その結果、都会はますます暑くなり、その暑さに負けないように更にクーラーを効かせるようになる。

8これを、もし夏は暑いものだと割り切つて、薄着をしたり、窓を開け放したり、水を打ったり、風鈴をつけたり、木陰ができるように木を植えたりすることで対応するならば、それは自然と調和した優しい社会を作ることにつながるだろう。

9確かに、人間は科学を発展させて、季節に制約されない文化を作り上げた。病人や老人にとって、暑い夏は負担である。健康な人にとっても、エアコンで調整された環境の方が、勉強も仕事も大いにはかどる。0しかし、その便利さに慣れるあまり、多様な季節を一色に塗りつぶすようなことをしては、人間の文化も私たちの感覚も、同じように機械的な一色に塗りつぶされることにならないだろうか。自然とは、私たちの外側にあるものではなく、私たち自身も含む世界である。自然を豊かに感じることは、自分自身を豊かにすることにもつながっているのだと思う。

(言葉の森長文作成委員会 M)

33 32 31 30 29 28 27 26 25 24 23 22 21 20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 09 08 07 06 05 04 03 02 01

66 65 64 63 62 61 60 59 58 57 56 55 54 53 52 51 50 49 48 47 46 45 44 43 42 41 40 39 38 37 36 35 34

1野生の動物は、いつもたくましく生きている。ペットの動物たちとは違い、常ならんと目を輝かせ、獲物を追い求め、あるいは獲物となることから逃れ、自分たちの子孫を残すために精一杯生きている。**2**この情熱的な生き方を、私たち人間も、もっと見直す必要があるのではないだろうか。

その理由は第一に、情熱的に生きることが、人間にとっても本当の喜びにつながると思うからだ。数年前、家族で山に登ったことがある。**3**山頂近くにある山小屋に泊まる予定だったが、途中の山道で雨が降り始め、やがて大雨になった。全身ずぶ濡れになったまま歩くと数時間、やっと山小屋にたどり着き、冷え切った体を乾かし、お湯を沸かして紅茶を飲んだ。**4**そのときの一杯の紅茶は、生き返るという言葉がぴたりするような味だった。クーラーや暖房の効いた部屋で、気に入った音楽を聴きながらゆっくり飲む紅茶とはまた違った、生きている実感のわく味だった。**5**情熱的に生きるということを考えるとき、この山登りと紅茶の味を思い出す。

第二の理由は、情熱的に生きることによって、自分の持ち味を十分に発揮した生き方ができるということだ。**6**戦国時代という下剋上の激しかった時代は、日本人が誰でも自分の実力で生きていかなければならない時代だった。その時代に生きた戦国大名たちは、現代から見るとそれぞれ個性に溢れた魅力ある人物に見える。**7**よく、信長、秀吉、家康の三通りの生き方を人間の生き方の三つの代表的な類型とすることがある。そこに見られる個性は、その三人が、地図も道もない言わば野生の世界で、自分の手で道を切り開いて生きるために、持ち味を生かさざるを得なかったことから生まれたものだ。

8確かに、社会保障のもとで安心して暮らせる人生というものも、人類がこれまでの長い歴史の中で達成してきた成果である。特に、昔のような農業中心の社会ならいざ知らず、今日のように工業化され経済的な格差が広がりやすい社会では、最低限度の生活を国が保障する仕組みというものは欠かすことができない。**9**だから、大事なことは、底辺はしっかりと保護するものの、それよりも上の部分については規制を撤廃して自由な競争に任せることだ。自由な社会でそれぞれが自助の精神で物事にあたるならば、それは野生動物のように生きている実感を呼び起こすことにつながるだろう。**0**情熱とは、単に心の持ち方で生まれるものではなく、行動の中から生まれるものだ。私もまた、安全な道を求めるのではなく、自分の力で道を切り開く自分しかない生き方をしていきたい。

(言葉の森長文作成委員会 M)

01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33

34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66

理性的に生きる (暗唱長文2)

1「葉隠」に、次のような言葉がある。「武士道は死狂ひなり。分別出来ればはやおくるゝなり」。これは、何ごとも死に物狂いで取り組むことが大事で、取り組む前に思慮分別をめぐらすようでは、既然後れを取っているという意味だ。2この言葉だけを見れば、確かにそうだと気がするが、この言葉を述べた佐賀藩の武士、山本常朝は、当時五十代で、既に藩の役職を退き隠棲している身だった。つまり、死に物狂いが大事だというのは、常朝がそれまでの長い人生経験から得た理性的な言葉だったのである。

3理性的であることが必要なのは、第一に、人間は理性によって正しい行動が取れるからだ。私は昔、自分の使っているパソコンの電気が急に切れたとき、壊れたと思いあちこち叩いてみた。叩いていると何かの拍子に直る気がしたからだ。4すると、そばで見えていた父が、笑いながら私のパソコンの裏を見て、「コードが外れているよ」と言ったのである。私はそのとき、故障を直すのは、直したいという情熱よりもむしろ直すための理性だということに改めて気づいた。

5理性が必要な第二の理由は、理性というものは成長するものだからだ。民主主義は、意見の違いがあるとなかなかまとまらない。そのとき、ふと優れた人の独裁の方が能率がよいのではないかと思うことがある。6しかし、人類の歴史は、民主主義の否定が多く、戦争を生み出したことを教えている。民主主義に欠陥があるのではなく、私たち一人ひとりが正しい理性を持つことによって民主主義をよりよいものにしていくことが大事なのだ。そして、実際、世界の民主主義は、年々向上しているように私には思える。7それには、インターネットによって多くの人が正しい知識を得られるようになってきたことも影響しているだろう。これまでのように理性のない扇動に国民全体が動かされるといことが少なくなってきたのである。

99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67

8確かに、人生には死に物狂いで立ち向かわなければならない場面もあるはずだ。しかし、その熱い情熱の背後には、冷たい理性が控えているなければならない。9そう考えると、理性とは、理性そのものに価値があるのではなく、死に物狂いという行動をより力のあるものにするために必要なのだということがわかってくる。大事なのは分別だが、その分別とは、思慮のための分別ではなく、行動のための理性的な分別なのである。0

(言葉の森長文作成委員会 M)

1 インターネットの世界は、今大きく変わりつつある。それは、ひとことで言えば、結果オーライの世界になりつつあるということだ。インターネットを支えるデジタル情報の技術は、デジタルという性格上、きわめて厳密な計算を可能にした。2 途中の過程で一単位の誤差もないような計算を積み重ねた結果、最後の結果がぴったり合うというのが当初の考えだった。しかし、一日に流れる情報量がテラバイトという単位になると、そのような考えでは現実にはそぐわないということがわかってきた。3 今の検索エンジンけんさくは、必要な情報が正確にどこにあるかを指示することはできないが、大体、どのへんにあるかを示すことはできる。そして、多くの人の現実のニーズはそれで十分である。

結果を重視するという考え方は、欧米おうべいの伝統に根差している。4 「勝てば官軍」とは日本のことわざだが、日本人はこれを「だから勝つことが尊い」という結果重視の考え方と取るよりも、「だから勝つたものには従うしかない」というあきらめの気持ちで受け取ることが多い。5 「結果は手段を正当化する」という考え方は、日本人にはあまりなじまないようだ。しかし、この結果がすべてだという考えは、勝負の世界では勝敗を決定づけるスピードとパワーの源泉になる。

6 過程を重視する考えは、しばしば、「汚く勝つよりも美しく負けた方がよい」という美意識につながる。日本文化には、この過程重視の伝統が流れている。「人事を尽くして天命を待つ」という言葉には、途中の過程さえ納得できれば、結果は問わないという一種の悟りにも似た感覚がある。7 この過程を尊ぶ考え方が、日本社会の独特の調和を生み出してきたとも言える。つまり、互いの結論は違っても、腹を割って話したという過程があればだれとでも手をつなぐことができるのである。

8 このように考えると、結果が大事か過程が大事かということは、部分的な問題だということがわかる。過程は、結果にとつての手段だが、より大きな目で見れば、結果こそが過程にとつての手段である。9 つまり、よい結果を目指すからこそ途中の努力に情熱を傾けることができるとも言えるのだ。そう考えれば、過程も結果も、ともに人間がよりよく生きるための手段だと言えるのかもしれない。0

1運動会の花形はリレーだ。走ることよりも、勝つことが目的である。だから、勝つことによる喜びが大きい。しかし、それは負ける悔しさで裏腹である。

勝ち負けは、確かに人間社会を進歩させてきた。**2**しかし、その進歩の動機となっているものは、勝つことによる優越感であり、逆の立場から見れば、負けることによる恐怖感である。

だからこそ、私たちは、勝ち負けのために必要以上の努力をしがちな。その努力は、時に非人間的なものにさえなる。**3**オリンピックで勝つために、恋も遊びもないスポーツだけの青春を過ごしたという話が、時に話題に上るのはそのためだ。

自ら選んだ苦しさであれば耐えられるという人もいるが、それは、勝ち負けという場を設定されたうえで選ばれている選択だとも言えるのではない。

4では、どうしたらよいか。ひとつは、勝ち負けという動機を生かしつつも、それにこだわらすぎないことだ。スポーツがさわやかなのは、勝負のあとの闘った者どうしのたたえ合いがあるからだ。

しかし、例えば、オリンピックで金メダルを取るのと銀メダルを取るのでは、その後の人生が大きく変わるのも事実だ。**5**とすれば、もうひとつには、勝ち負けにこだわらなくてもいいような環境作りとも言える。

ちばてつやの描いた漫画「明日のジョー」では、主人公の矢吹丈は、ドヤ街の子供たちを率いるガキ大将だった。そのジョーの隠れた才能を、元ボクサーだった段平おじさんが見出す。**6**そして、ジョーの世界チャンピオンへの道が始まる。

ボクシングは、ハングリースポーツだとも言われる。貧しさをばねにして、腕に自信のある少年が世界を目指すのは、世界チャンピオンのベルトという栄光とともに、場合によっては何億円もの賞金という豊かさを手に入れることができるからだ。

7もし、世界チャンピオンの成果が、みんなからの賞賛と月桂樹の冠だけだったとしたら、ボクシングが本当に好きな者が、趣味としてボクシングというスポーツに興じるといふ程度のものだっただろう。

8そう考えれば、スポーツをゆがめているものは、スポーツの勝者に与えられる法外な賞金ではなく、それ以前に人間社会全体の貧困だと言えないだろうか。スポーツを人間的なものにする条件は、スポーツ以外の社会の中にあるのである。

9そして、更に大事なことは、勝ち負け以上の動機、例えば、社会への貢献や自分自身の向上を、努力のための動機とする仕組みをスポーツの中に作ることだろう。

人類は、さまざまな発明や発見をしてきた。勝ち負けを超える、もつと魅力ある何かも、いつか発明され発見されるはずだ。**0**

(言葉の森長文作成委員会 M)

99 98 97 96 95 94 93 92 91 90 89 88 87 86 85 84 83 82 81 80 79 78 77 76 75 74 73 72 71 70 69 68 67